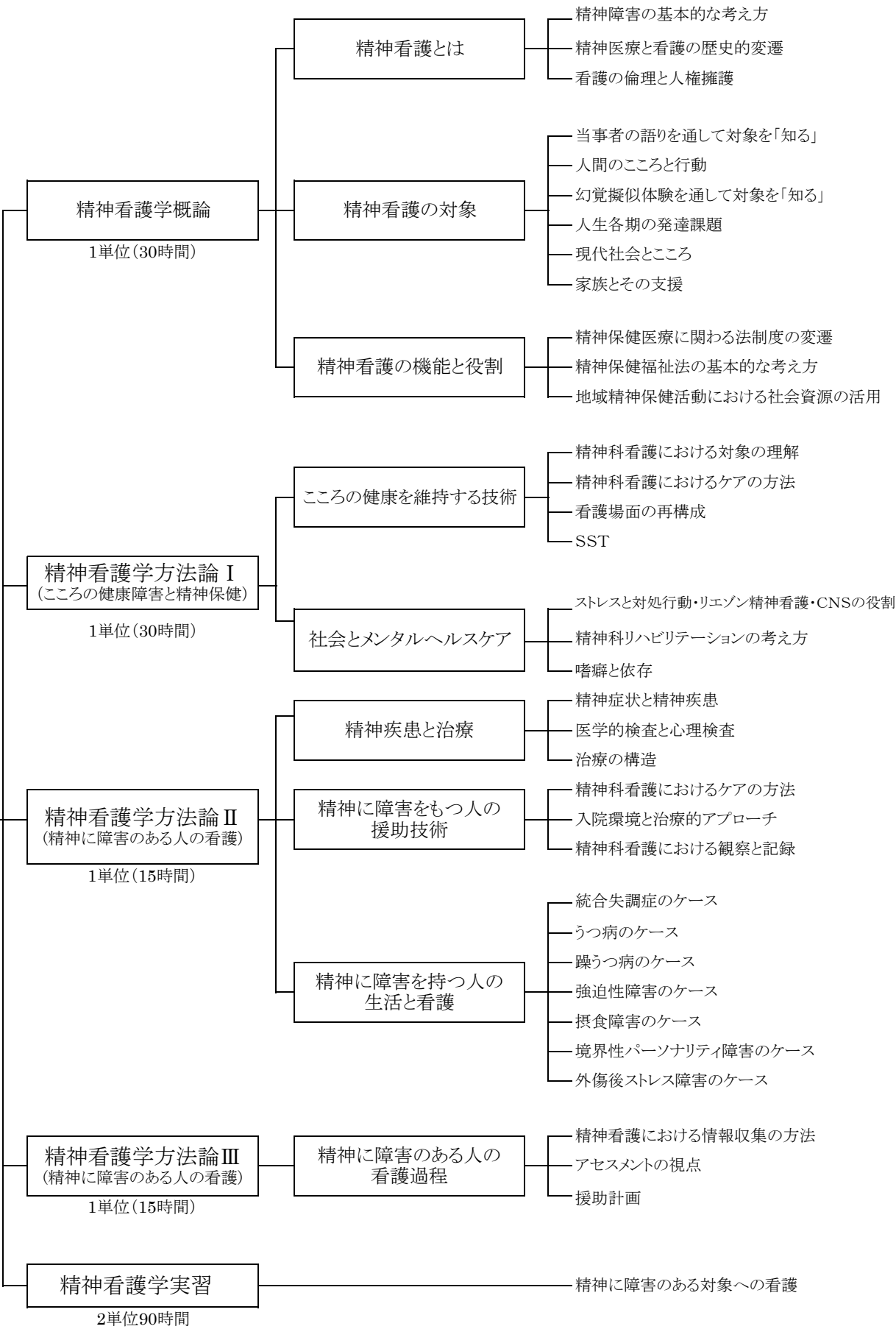


精神看護学 科目構成

精神看護学 6単位 195時間



専門分野Ⅱ	精 神 看 護 学 概 論	講師・教員 (実務経験)	高橋 彩織 (有)
単位・時間	1 単位 30 時間	履修時期	1 年後期
科目の概要	精神疾患の発症は、誰にでも起こりうる出来事である。精神障害および精神看護学、こころのありようをめぐる基本的事項を学んだ後、幻聴の擬似体験、DVD の視聴から、対象理解を深める。現代社会とこころの問題のグループ討議を通して、こころの健康保持が困難な社会に生きている自分自身を見つめ直すきっかけにする。さらに、精神障害者の処遇と法制度を歴史的に振り返り、倫理的配慮に基づいた看護者の姿勢について考える。		
目 標	1. 障害も生活を構成する因子の一つであることを理解し、人間の健康を、身体的・心理的・社会的な視点から捉えることができる。 2. 人間のこころを見る視点、こころの防衛機制など、こころのありようをめぐる基本的事項を学ぶ。 3. 幻聴の擬似体験を通して対象理解を深める。 4. ライフサイクル各期における特徴と危機について学ぶ。 5. 現代社会における、精神保健に関わる社会問題を理解する。 6. 精神保健福祉看護の歴史と法制度を理解する。 7. 医療における患者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害をめぐるアドボカシーの考え方を学ぶ。		
回 数	授 業 内 容		授業形態
1 回	精神科における看護		講 義
2 回	精神障害の基本的な考え方 1		講 義
3 回	精神障害の基本的な考え方 2		講 義
4 回	人間のこころと行動 1 人のこころの様々な理解 こころの防衛機制		講 義
5 回	人間のこころと行動 2 ストレスとストレッサー 回復ということ		講 義
6 回	擬似体験を通して対象を「知る」		講義・演習
7 回	人生各期の発達課題		講 義
8 回	現代社会とこころ 1		講 義
9 回	現代社会とこころ 2		講 義
10 回	家族とその支援 1		講 義
11 回	家族とその支援 2		講 義
12 回	精神医療と看護の歴史的変遷		講 義
13 回	精神医療をめぐる法律		講 義
14 回	看護の倫理と人権擁護		講 義
15 回	まとめ・終講試験		講義・試験
テキスト	出口禎子著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本／第 4 版. メディカ出版, 2019 出口禎子著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践／第 4 版. メディカ出版, 2019		
参考文献	武井麻子著. 精神看護学ノート／第 2 版. 医学書院, 2010 中井久夫・山口直彦著. 看護のための精神医学. 医学書院, 2002		
評 価	試験 100%		

専門分野Ⅱ	精神看護学方法論Ⅰ (こころの健康維持と精神保健)	講師・教員 (実務経験)	高橋 彩織 (有) 鈴木 寛 (有) 福田 保広 (有)
単位・時間	1 単位 30 時間	履修時期	2 年前期
科目の概要	精神科における援助の特徴と意義を理解し、その具体的な方法を講義と演習を通して習得する。また、精神科リハビリテーション、看護師のストレスマネジメントを外部講師の臨床体験も含めた講義を通して学ぶ。		
目 標	1. 精神科における援助の特徴を理解する。 2. 患者と看護師との間に生じる現象を理解する。 3. プロセスレコードにて、自己の傾向を理解する。 4. 看護師のストレスとその対処が考えられる。 5. 精神看護の役割を理解する。 6. 精神医療におけるリハビリテーションの意味とリハビリテーションに関わるサポートシステムを理解する。 7. 嗜癖、依存と反社会行動との関連を理解する。		
回 数	授 業 内 容	授業形態	講師
1 回	精神科看護における援助技術の特徴	講 義	鈴木
2 回	精神科看護における援助の方法 1. 「治療的関わり」の考え方 2. 患者 ― 看護師関係でおこること	講義・演習	鈴木
3 回	看護場面の再構成① 再構成の意義	講 義	高橋
4 回	看護場面の再構成② 検討会	演 習	高橋
5 回	看護場面の再構成③ 検討会	演 習	高橋
6 回	看護場面の再構成④ プロセスレコードの振り返り	演 習	高橋
7 回	グループと看護	講 義	鈴木
8 回	SST とその技法①	講 義	鈴木
9 回	SST とその技法②	講 義	鈴木
10 回	看護師のストレスマネジメントと精神看護専門看護師 1. 看護師のストレス 2. 看護師のストレスマネジメント 3. 精神看護専門看護師	講 義	福田
11 回	精神保健活動とリハビリテーション 1	講 義	福田
12 回	精神保健活動とリハビリテーション 2	講 義	福田
13 回	嗜癖と依存 1. 依存のとらえ方 ～アルコール依存症の看護～	講 義	福田
14 回	2. 逸脱行動と「烙印」 3. 治療・看護の特徴	講 義	福田
15 回	まとめ・終講試験	講義・試験	高橋
テキスト	出口禎子著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版, 2019 出口禎子著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版, 2019		

参考文献	吉松和哉他編. 精神看護学Ⅰ（精神保健学）／第 6 版. ヌーヴェルヒロカワ, 2015 川野雅資編. 精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学）／第 6 版. ヌーヴェルヒロカワ, 2015 武井麻子著. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の実際(精神看護学 1). 医学書院, 2013 武井麻子著. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開(精神看護学 2). 医学書院, 2013
評価	試験 100%

専門分野Ⅱ	精神看護学方法論Ⅱ (精神に障害のある人の看護)	講師・教員 (実務経験)	伊澤 寛志 (有)
単位・時間	1 単位 30 時間	履修時期	2 年前期
科目の概要	精神科看護として、精神疾患やその診断と検査・治療などに対する知識を深めていく。そしてそこから、主な精神疾患に伴う看護を、対象者の日常生活を通して理解していく。また、心身の病や障害をもつ人がその人らしく、地域や病院で自立的に生活することを助けるために必要な知識・技術・態度を習得する。		
目 標	1. 精神障害の基礎知識について学び、主な精神疾患・治療について理解する。 2. 精神に障害をもつ人の生活と看護を理解する。 3. 精神に障害をもつ人の援助のあり方を理解する。 4. 精神疾患に応じたそれぞれの看護展開方法を理解する。		
回 数	授 業 内 容	授業形態	
1 回	1. 精神症状と精神疾患 1) 精神疾患総論 2) 精神作用物質による精神障害	講 義	
2 回	3) 統合失調症	講 義	
3 回	4) 気分障害	講 義	
4 回	5) 神経症性障害 6) 心的外傷後ストレス障害 7) パーソナリティー障害 8) 心身症	講 義	
5 回	9) 認知障害	講 義	
6 回	2. 医学的検査と心理検査 3. 治療の構造	講 義	
7 回	4. 入院環境と治療的アプローチ	講 義	
8 回	精神科看護における観察と記録	講 義	
9 回	精神科看護におけるケアの方法 1) 日常生活行動の援助 2) 服薬治療に関わる援助	講 義	
10 回	生活障害と看護の実際 統合失調症（急性期）のケース	講 義	
11 回	生活障害と看護の実際 統合失調症（慢性期）のケース	講 義	
12 回	生活障害と看護の実際 1) うつ病のケース 2) 躁うつ病のケース	講 義	
13 回	生活障害と看護の実際 1) 強迫性障害のケース 2) 摂食障害のケース	講 義	
14 回	生活障害と看護の実際 1) 境界性パーソナリティー障害のケース 2) 外傷後ストレス障害のケース	講 義	
15 回	まとめ・終講試験	講義・試験	

テキスト	<p>出口禎子 著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本／第4版. メディカ出版, 2019</p> <p>出口禎子 著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践／第4版. メディカ出版, 2019</p>
参考文献	<p>青木崇著. こころの病気を治すために「本当」に大切なこと ～意外知らない精神科入院の正しい知識と治療共同体という試み～ メディカルプレッシャー, 2014</p>
評価	試験 100%

専門分野Ⅱ	精神看護学方法論Ⅲ (精神に障害のある人の看護過程)	講師・教員 (実務経験)	高橋 彩織 (有)
単位・時間	1 単位 15 時間	履修時期	2 年後期
科目の概要	本授業では、精神に障害をもつ対象の統合的（身体的・心理的・社会的）な理解を学ぶ。対象の背景や日常生活の状況を考慮し、情報を系統的に整理、分析する力を養う。また、対象は常に病的な部分が出現するのではなく、健康な部分も合わせ持つということを理解していく。 事例を通して、精神科の特徴を踏まえ、ヘンダーソンの 14 項目を基にアセスメントを行い、全体像を把握し、援助計画を立案していく。計画立案にあたっては、未充足な点にのみ焦点をあてるのではなく、対象の持っている力に着目し、保持・拡大をめざす視点を養っていく。		
目 標	1. 対象を統合的に捉え、情報を整理し、精神状態のアセスメントができる。 2. 対象の背景を捉え、日常生活の状況を把握し、健康な部分と病的な部分が整理できる。 3. 対象の問題を整理し、看護師が援助する部分を抽出できる。 4. 対象の全体像から最も必要な援助が考えられる。 5. 対象の個別性を踏まえた具体的な援助計画を考えられる。		
回 数	授 業 内 容		授業形態
1 回	1. 精神科看護過程の考え方 1) ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 2) ウェルネスの考え方 3) 事例紹介		講 義
2 回	2. 情報の整理		講 義
3 回	3. アセスメントと全体像		講 義
4 回	4. アセスメントと全体像		講 義
5 回	5. 看護計画		講 義
6 回	6. 看護計画		講 義
7 回	7. 看護計画発表会		講 義
8 回	8. 看護計画発表会		講 義
テキスト	ヴァージニア・ヘンダーソン著. 看護の基本となるもの. 日本看護協会出版会, 2016 秋葉公子著. 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践／第 4 版. HIROKAWA, 2013 矢田昭子, 秦美恵子他編. 基準看護計画臨床でよく出会う看護診断と潜在的合併症／第 3 版. 照林社, 2016		
参考文献	出口禎子著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学 情緒発達と看護の基本／第 4 版. メディカ出版, 2019 出口禎子著. ナーシング・グラフィカ 精神看護学 生活障害と看護の実践／第 4 版. メディカ出版, 2019 焼山和憲著. はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程～ 医歯薬出版株式会社, 2007 川野雅資編. 精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学）／第 4 版. ヌーヴェルヒロカワ, 2015 川野雅資編. 看護学実践 - Science of Nursing-精神看護学. 日本放射線技師会出版会, 2007		
評 価	個人の記録物及び学習態度 80％ グループの記録物及び発表内容 20％		